

都市史学会主催・書評会

高橋慎一郎・千葉敏之編

『移動者の中世』

を読む

2018年6月9日 土 14:00-16:30 東京大学史料編纂所大会議室 (福武ホール地下1F・定員50名)

開催趣旨

高橋慎一郎・千葉敏之編『移動者の中世—史料の機能、日本とヨーロッパ』(東京大学出版会、2017年5月刊)は、『中世の都市』(2009年)の方法論的成果を継承しつつ、日本史・西洋史・建築史・美術史の研究者が、他の地域・分野との対話を視野に、「移動の比較史」に取り組んだ論集です。

本書からは、人・モノ・情報の移動の現場となる「都市」を考察する上で、多大なヒントが得られるものと思われます。そこで、このたび、日本史・西洋史・建築史の報告者に本書を縦横無断に読み解いていただき、執筆メンバーも交えて自由闊達に議論する場を用意することにいたしました。

多くのおみなさまのご参加を、お待ちしております。

司会・進行=勝田俊輔・三枝暁子

開催スケジュール

14:00~15:30

報告1 落合義明氏(日本史・大東文化大学)

報告2 岸泰子氏(建築史・京都府立大学)

報告3 坂野正則氏(西洋史・上智大学)

各30分

15:40~16:30

討論

参加について

事前申込は不要です。会員外の方でもご参加いただけます。
なお、資料代として500円を頂戴いたします。

東京大学史料編纂所大会議室
(福武ホール地下1F)

東京メトロ丸ノ内線・都営大江戸線本郷三丁目駅より徒歩7分、
東京メトロ南北線東大前駅より徒歩10分、千代田線根津駅より徒歩15分、同湯島駅より徒歩20分。

